

まちづくり懇談会内容

日 時： 令和 7 年 5 月 1 日(木) 18:30～20:00

場 所： カルチャープラザ

出席者： 22 人

1. 開 会

2. 町長挨拶

3. 懇 談

(1) 令和 7 年度の推進事業について 資料①参照

(2) 自由懇談

4. その他

- ・資料②参照 「関係機関・団体からの質問・意見」に対する回答一覧
- ・資料③参照 犯罪被害者等の支援について

5. 閉 会

【自由懇談・そのほかの質疑など】

■インフラ分野のコンパクト化について

町 民 これから町の財政が厳しくなっていくことは間違いないと思っている。そんな中、我々、建設分野としては、インフラ分野をコンパクト化していくことが必要だと思っている。例えば上下水道のインフラは、毎年、更新作業があるが、コンパクトになるとかなりの削減ができると思う。その削減した分を、例えば教育や社会保障の分野に当てていくことが望ましいと思っている。

町 長 栗山町の人口は 1 万 1000 人を切ったが、町の作りや形態を見渡してみると、20 年前の 1 万 5000 人以上いた時の人口をカバーする公共施設であったり、上下水道の管理であったり、インフラが整備されている。今から 15 年後の 2040 年には、全国で高齢化、高齢者人口が一番多くなり、その年に栗山町の人口は 8000 人を切ってしまう。さらに、今から 34 年後の 2060 年には今の人口の半分以下となる 4600 人まで減っていく。今の 1 万 5000 人ぐらいの町の規模の施設関係や資産を人口規模に応じたものに縮小していかざるを得ないことであり、我々がしっかりやっていかなければならないことである。コンパクト化は、非常に有効なものだと思っている。もともと栗山は、203 平方キロの南北に長い地形をしており、その中の北部に栗山市街地、これが全面積の 1/100、1.7km²位のところに人口の約 7 割近い方が住まわれているコンパクトシティといえる。これから将来に向けて、いろんな意味で縮小化を図って、これから非常に難しい判断をしながら調整を進めていかなければならない。私も含めた現役世代の一番大事な仕事は町を健全な状態にして、次の世代、今の子どもたちにしっかりバトンを渡していくということが、一番大事な仕事である。人口規模に応じた町になるよう様々な工夫をしていきたい。

■南部地区の医療について

- 町 民 南部地区は市街地と離れているので、早く何らかの手を打ってスタートさせた方が良いと思う。医師を相手にすると、いろいろな難しい問題があると思うが、診療所を作ったほうが良いという意見もあると思うので、何らかの手を打ったほうが良い。
- 町 長 今まで2回意見交換会を開催した。開業医の誘致、診療所の開設、開院する栗山赤十字病院への通院を便利にしながら通っていただくといった、3つの案を提示し議論を進めている。意見は分かれており、特に高齢者からは、診てくれる医師がそばにいてほしいとか、緊急の時に診てもらえる体制がいいとの意見があるが、現実的に医師が来てくれるということは考えにくいので南部の方から栗山赤十字病院に行く通院バスだして活用したらどうかといった意見も出されている。これから議会と協議をして方針を定め、次の意見交換会には、町の考え方を示し、地域の皆さんが不安にならないようにしたい。

■学校の部活動について

- 町 民 学校の部活動が維持できなくなっている。指導者やクラブの運営を地域に任せるといって、上から言われてきている。ところが前に検討会をしたら、何かあった時の保険はどうするのかとか、仕事を休んでまで子どもたちのクラブ運営できないとか、大きな問題があることも分かった。すぐにはできないが、次年度とかには、クラブ活動に対して地域はどういうことができるかということをテーマに、これから先の課題として続けていただけたらと思っている。
- 教 育 長 今現在、地域移行がもうすでに行われている部活がある。その中で野球、サッカー、剣道、柔道、バスケットボール、実際にサッカーは一部地域少年団と合同で練習をしている実態がある。また柔道については、連盟同士がもうすでに一緒になったり、練習も長沼と一緒にやったりしている。ただ、中体連に出る段階では、学校の責任者というのが当然必要になってくるので大会の時には担当教諭がついている。来週、当事者の方々と、第1回目の今年度の話し合いをする。国からは地域移行は来年度に実施という形でいわれていたが、1年間先延ばしになった。ただ、先延ばしになっても国の方針は変わらないので、栗山町としては来週から現在できる部活動から作業を進めていく。できない部活がどうしても出てくるため、できない部活については、1市4町で実務的な話をしているが、なかなかまとまっていない。現在の例えば中学生のバレーボールはクラブチームが出来上がっている。栗山町の子どもたちが南幌町のクラブチームに所属して大会に出ており、中体連にも出ている実態がある。具体的なところまでは決まっていらないが、一つずつ詰めていけるところは詰めていく。いずれにしても、今いる児童生徒が困らない形を作り上げていきたい。

■観光ブランディングについて

- 町 民 観光ブランディングの取り組みということで、地域ブランディング、他地域との差別化を図りますということだがなかなか難しい印象を持っている。今時点のプランやイメージがあれば聞かせていただきたい。
- 商工観光課長 栗山町観光振興計画を先日策定した。誘客を進めるために、どんなブランディングをしていけばいいかということ形にした。年間30万人ほどの観光客を60万人規模にするといった計画。観光施設同士の横の連携が不足していることや、観光に関する情報発信が全く統一されていないこと、町のホームページも観光の発信が弱いことが議員からも意見があったので、他の市町のように、もう少し観光協会を充実させながら情報発信していこうと先日からInstagramで発信している。栗山町は有名な観光地と言われている場所が少ないが、個々が持っている素材は、食を含めて充実してきている。他の地域との差別化はなかなか難しい

が、栗山町はいい立地なので何とか札幌を中心とした人たちを呼ぼうということで今行っている。今後インバウンド向けにも差別化を図っていきたいと考えている。

■ネイチャーポジティブについて

町 民 町の職員が 2 月に環境省や国交省に行くのをお願いして勉強のために自費で同行させてもらった。そこで、なぜネイチャーポジティブと言われているかわかった。ヨーロッパのドイツでは、この 30 年間に昆虫の 75%がいなくなった。それで自然再生という言葉ではなく自然再興という言葉を使っている。日本でもこの 30 年間に 45%の昆虫がいなくなってしまった。ハサンベツ里山は始まってから 25 年たった。ほとんど農業放棄地でゴミ捨て場状態だったものを、本当に町民の皆さんのボランティアで、当初は 70 人ぐらいでずっとやっていた。だが、先日の総会が 10 人の参加だった。これから先、どういうふうに展開するかということについては、ぜひ若い人たちも加わっていただいて、いろんな人たちが手をつないで新しい形を作ってほしい。本当に栗山の子どもたちのために行政には力強い支援をしてもらいたい。

町 長 ハサンベツ里山は栗山の宝物ということ。宝物の場所を若い人たちが引き継いでいけるような支援を町も行っていきたいと思っている。明治 21 年、この地域が素晴らしいということで、開拓者が入ってきた。そういった土地をこの栗山が持っているわけなので、歴史とともに、我々が引き継いでいかなきゃならない。スピリッツを持ちながらしっかりやっていきたい。